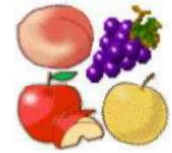


令和5年度 果樹情報 特別号
 ～ モモせん孔細菌病の防除対策 ～
 (令和5年9月4日)
 福島県農林水産部農業振興課



福島県病害虫防除所より8月29日付けで「令和5年度病害虫防除情報」が発表されました。モモせん孔細菌病の翌春の春型枝病斑の発生を防ぐためには、落葉痕からの感染を減らすことが重要です。

今後の天候しだいでは、感染が増加するおそれがありますので、秋期防除の降雨前予防散布を徹底し、越冬菌密度の低下を図りましょう。

1 モモせん孔細菌病の発生状況

- 8月中旬の新梢葉での発生ほ場割合は、福島地域が平年並、伊達地域が平年より少ないものの、中発生ほ場が確認されています。また、各地域において増加が見られます(図1)。
- 天候予報(仙台管区気象台 令和5年8月31日発表)によると、向こう1か月の降水量は平年並の確率が40%と予想されていますが、今後の降雨条件によっては、新梢葉での発生が増加するおそれがあります。

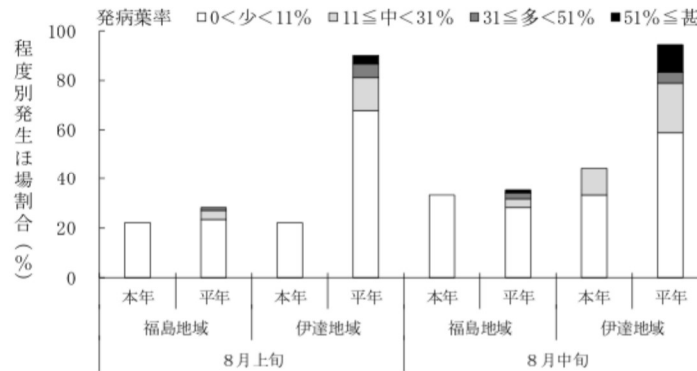


図1 新梢葉におけるモモせん孔細菌病の発生状況 (8月)
 調査地点: 福島地域9園地、伊達地域9園地 (あかつき、ゆうぞら)

2 防除対策

(1) 秋期防除の徹底

9月中～下旬に降水量が多いと、翌年の春型枝病斑の発生が多くなる傾向にあります。秋期防除を確実に実施し、越冬菌密度の低下を図りましょう。

- 9月上旬以降、2週間間隔でボルドー液などの銅剤による秋期防除を3回実施しましょう。「ゆうぞら」、「さくら」等の晩生種・極晩生種については、収穫終了後、速やかに防除を行いましょ。
- 秋期防除を実施する前には、あらかじめ秋季せん定を実施し、薬液がかかりやすいようにした上で、丁寧な散布を心がけましょう。また、1回目の防除以降に薬液のかかり具合を確認し、必要に応じて秋季せん定を追加で実施しましょう。
- 台風等強い風雨により、落葉痕からの感染が多くなるため、降雨前の予防散布を徹底しましょう。
- 使用する薬剤は地域の防除暦等を参照し、農薬使用基準を遵守してください。なお、薬剤によっては高温時等の散布は薬害を生じる可能性があるため、注意してください。

(2) 物理的防除等の実施

- 風当たりの強い園地で発生しやすいため、防風対策が重要です。台風発生が多い季節に備え、防風ネットを展張し、網の点検・補修を行いましょ。防風ネットを設置していない園地では、次年度に向けて設置を検討しましょ。
- 雨よけ栽培は防除効果が高いため、例年発生が多い園地では導入を検討しましょ。
- 樹勢の弱い樹で発生しやすいため、肥培管理などにより樹勢の維持を心がけましょ。

病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、参照してください。

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

農薬の散布は使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 農業革新担当 TEL 024(521)7344

(以下の URL より他の農業技術情報等をご覧ください。)

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>